

こ かん せつ 股関節・ひざ・足の手術の痛み止め

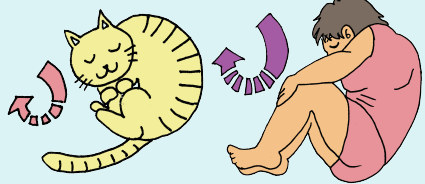
こうまくがい ますい 硬膜外麻酔

ベッドの上で横向きになっていただき、腰から注射をして、手術する部位に痛み止めを効かせます。当院では多くの手術で行います。背中に糸のように細いチューブを残しておき、手術後も続けて痛み止めを使います。

おへそを見るようにして、できるだけ丸まってください。

歯医者さんでするような局所麻酔の注射をします。それほど痛くありませんよ。

腰のあたりに麻酔をします



猫のように背中を丸めていただくと注射がスムーズにできます。

背中に細いチューブが入ります。



痛み止めの薬が入っています

手術のあとも痛み止めが効き、痛みがかなりやわらぎますが、薬がきいている間は、足の感覚の鈍さや力の入りづらさを感じる場合があります。

～ほかにも、いろいろな痛み止めがあります～

せきつい ますい

脊椎麻酔（下半身麻酔）

硬膜外麻酔のように、背中から注射をします。すぐれた痛み止めですが、下半身に力が入らなくなります。2-3時間で痛み止めの効果が弱まります。手術後に頭痛がすることがまれにあります。

だいたいしんけい

大腿神経ブロック

眠っている間に、太ももの付け根の神経の近くに注射をします。太ももの前面から膝にかけて半日ほど痛み止めの効果があります。

点滴などの痛み止め

点滴からの薬や坐薬などを使って、痛みをやわらげることもできます。

患者様の病状や手術の内容に合わせて、もっとも良い痛み止めを使っていきます。

